

展示品の みどころ

菩薩半跏像

重要文化財
銅造 像高16.7
飛鳥時代(7世紀)
奈良 神野寺



右手の指先を頬に当て、肘をつき、右足を左膝の上
のせ、左足を踏み下げて椅子に坐る半跏思惟像である。
ガンダーラでは、仏伝の一場面に悉達(シッタールタ)太
子が思い悩む姿としてあらわされる。中国の半跏思惟像
は、北魏時代5世紀から見られ、北齊時代6世紀後半に
流行するが、いずれも銘文には「太子像」「太子思惟像」
と記される。中国の思惟像をどのように解釈するか諸説
あるが、「弥勒菩薩のいる兜率天とそつてんに生まれ変わること
を思惟して信者を導く菩薩」であったとする説が有力視さ
れる。朝鮮半島では6世紀から7世紀にかけて流行する
が、ここでは、弥勒菩薩のもとに導く菩薩ではなく、弥勒
菩薩自身として信仰されたようである。そして、日本でも
恐らく弥勒菩薩として造像され、信仰されるようになった

と考えられる。

本像のように、腰が細くすぼまったプロポーションは、長
野・観松院像のような朝鮮半島製の渡来仏に類似してい
る。しかし、左右にパルメットのような扇状のもの付いた
特異な形状の宝冠は、他に例を見ない。インドのターバン
冠飾を扁平に表現したとも考えられるが、正確なところは
わからない。本像にはこのような朝鮮半島の半跏思惟像に
は見られない要素もあるので、朝鮮半島のものになって
日本で制作されたもので、その制作時期も7世紀中頃と考
えられる。蠟型法による一鑄で、全体に火中した形跡があ
る。

岩井 共二(当館学芸部教育室長)

◆名品展「珠玉の仏たち」なら仏像館にて展示

開館日時(10月~12月)

■開館時間

平常時
午前9時30分~午後5時
※10月25日までの毎週金曜日、12月17日は午後7時まで
正倉院展会期中(10月26日~11月11日)
月曜日~木曜日:午前9時~午後6時
金・土・日曜日、11/3(祝)、11/4(振休):午前9時~午後7時
※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(ただし10月14日(祝)、12月23日(祝)、
12月30日は開館し、10月15日(火)、12月24日(火)は
休館)、1月1日(水・祝)
※正倉院展の会期中は無休

観覧料金

第65回正倉院展

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円
オータムレイト	700円	500円	200円

※団体は20名以上です。※前売は、10月25日(金)まで。
※オータムレイトは、閉館の1時間30分前より販売する当日券の料金です。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※満70才以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR
奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス
「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの
県営駐車場等(有料)をご利用ください。

